



製品概要

- [Cisco DNA Spaces : 検出と検索 の概要 \(1 ページ\)](#)
- [ライセンス \(3 ページ\)](#)

Cisco DNA Spaces : 検出と検索 の概要

Cisco DNA Spaces : 検出と検索 では、展開における Wi-Fi デバイスの現在および過去の位置を表示できます。

Cisco DNA Spaces : 検出と検索 を使用して、ネットワーク内のビルと、ビル内に展開された Wi-Fi アクセスポイント (AP) の固定物理レイアウトを表示できます。GPS マーカー、位置計算用の除外ゾーンまたは包含ゾーンなど、他の固定コンポーネントを確認できます。Cisco DNA Spaces : 検出と検索 では、ネットワーク内の Wi-Fi デバイスの動的な性質も確認できます。次のデバイスの計算された位置を表示できます。

- [Associated Wi-Fi devices] : 緑色の点で表示されます。IP アドレスや製造元など、シスコワイヤレス コントローラ のデバイスに関する情報が含まれます (取得可能な場合)。これらのデバイスがいつ表示されたかの履歴も保持されます。
- [Active RFID Wi-Fi Tags] : この情報は、タグデータを使用するアプリケーションのトラブルシューティングに役立ちます。
- [Rogue Access Points] : コントローラが検出し、「不正」とラベル付けされた AP。AP の MAC アドレスが、推定される位置とともに表示されます。
- [Rogue Clients] : コントローラが検出し、「不正」とラベル付けした Wi-Fi クライアント。クライアントの MAC アドレスが、推定される位置とともに表示されます。
- [Unassociated Wi-Fi devices] : これらのタイプのデバイスの位置とその数がベストエフォートベースで計算され、表示されます。



注 これらのデバイスは、ネットワークに関連付けられていない限り、MAC アドレスを変更でき、有効な位置の履歴がないことに注意してください。

Cisco DNA Spaces は、アクティブなデバイスのみを追跡する位置プラットフォームです。アクティブなデバイスとは、5分以下の頻度で定期的に Wi-Fi プローブパケットを送信するデバイスで、これらのプローブはデバイスの位置を計算するために使用されます。デバイスがプローブを送信する頻度はデバイス主導であり、確定的ではありません。

Cisco DNA Spaces のクライアントの数（関連付けられているものとプロービングされているもの両方）をコントローラの数と比較することはできません。これらのシスココンポーネントの設計に根本的な違いがあるためです。コントローラと Cisco DNA Center の両方が関連付けられているデバイスがアクティブと見なされます。関連付けられたデバイスは、単にネットワークに関連付けられているデバイスです。また、Cisco DNA Center はデバイスの位置について Cisco DNA Spaces に依存しているため、Cisco DNA Center は単なる未配置デバイスとして関連付けられているデバイスのみを表示します。

Cisco CMX デバイスの Cisco DNA Spaces へのテザリングは、顧客の Cisco DNA Spaces への移行を支援するために使用する設計になっています。これにより、顧客はデバイスが Cisco DNA Spaces に最初どのように表示されるかを確認できます。ここでも、Cisco CMX と Cisco DNA Spaces のデバイスの数を比較することはできません。テザリングされたデバイスでは、精度に関するトラブルシューティングを Cisco CMX で行う必要があります。

コントローラでは、アクティブなデバイスを常時プロービングする必要はありません。一方、Cisco DNA Spaces では5分以下の頻度で定期的なプロービングが必要です。そのため、コントローラでアクティブと表示されるクライアントデバイスが Cisco DNA Spaces にはない可能性があります。これらを、位置を確認できないデバイスと呼びます。

次に、Cisco DNA Spaces にデバイスがないと表示される可能性のある理由を一覧で示します。

- デバイスがマップに配置されていない AP によって報告されている場合。コントローラに接続されている AP の多くがマップに追加されていない場合、これらの AP によって報告されたデバイスは表示されません。
- 関連付けられたクライアントが、バッテリーの電力を節約するためにプロービングを減らしている場合。これは正確な位置検出に直接影響します。関連付けられたクライアントがウルトラパワーリザーブモード（スリープモードで画面が空白になる）に入り、プローブを送信しない場合。これにより、Cisco DNA Spaces はデバイスの位置を検出できなくなります。ユーザーがホーム画面のロックを解除するか、コンテンツのストリーミングを開始すると、デバイスは再びアクティブになり、ワイヤレスネットワークへのプローブの送信を開始します。Cisco DNA Spaces は、このような非アクティブまたはスリープ状態のデバイスを検出できません。
- Cisco DNA Spaces は、Wi-Fi デバイスが定期的に Wi-Fi プローブパケットの更新を送信し、デバイスのステータスがアクティブであることを確認することを期待します。ただし一部のデバイスは、Wi-Fi プローブを送信していないにもかかわらず、コントローラによりアクティブと見なされ、そのようなデバイスは位置を確認できないデバイスと見なされません。

Cisco DNA Spaces : 検出と検索 で使用されているオープンソースの詳細については、以下を参照してください。

<https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/open-source-documentation-responsive.html>

ライセンス

Cisco DNA Spaces : 検出と検索 は Cisco DNA Spaces の ACT ライセンスに含まれています

